PRESS RELEASE　2023.9.29

東京都現代美術館

MOT アニュアル 2023　シナジー、創造と生成のあいだ

2023 年 12 月 2 日(土)―2024 年 3 月 3 日(日)　　東京都現代美術館　企画展示室 3 階　ほか

「MOT アニュアル」は 1999 年に始まり、若手作家の作品を中心に現代美術の一側面をとらえ、問いかけや議論のはじまりを引き出すグループ展のシリーズです。19 回目を迎える本展では、アーティストの想像力や手仕事による「創造」と、近年、社会的に注目を集める NFT や人工知能、人工生命、生命科学などのありようを反映するかのように自動的に生まれる「生成」とのあいだを考察します。
1990 年代頃から一般にも広く認識されはじめたメディアアートやメディア芸術領域は今も拡張を続け、復元やアーカイブ化による再検証や歴史化の過渡期にあります。また、国際的な企画展やコンペティションに集まる作品群の中にも、ビッグデータや AI、機械学習によるもの、A-Life、群知能を思わせる作品が多数見られるようになりました。繊細な手仕事によって成立する作品も確実に存在する一方で、それらの根底にも、現在的な情報処理の概念が存在します。本展では、「創造と生成」の両方を見つめ、テクノロジーを用いながらも造形的な語彙によってアイデアを外在化し、私たちの想像力をこれまで以上に掻き立てようとする作家たちの多様な試みに着目し、11 組の作家による約 50 点の作品・資料を展示します。
2020 年以降、プログラミング教育が普及し、次世代に向けて、表現のプラットフォームは変容を続けています。本展では、リアル展示に限らず、デジタル上に拡がるメタバースや空間アーカイブなどを視野に入れた事業やイベントを展開します。本展の試みを通して、これまで対立的に捉えられがちであった「創造と生成」「アナログとデジタル」のありようを見直し、それらを超えて両者のあいだに生まれるシナジー（相乗効果）を見つめ、私たちの知覚の拡がりを問いかける場が生まれれば幸いです。

展覧会 3 つのポイント

1　新作…本展オリジナルのインスタレーションを紹介

「創造と生成」の両域にまたがり活動する 10 歳から 30 代までの若手アーティストによる、本展のための新作や、本展にあわせたインスタレーションを展示します。（詳細は「2 展開」、「参加作家・作品」参照）テクノロジーを用いつつ、決して「最先端」を追うことに限らない、表現領域の拡がりと流れをご覧ください。

2　展開…領域横断的な魅力ある作品群

インスタレーションなどのリアル展示に加え、多様な形式の作品群を展示します。①デジタルの可能性を発揮して NFT 上に展開されたドローイング、②リアルタイムでネットワーク上に存在し、当館の展示空間を往来する重層的な表現、③手仕事とデジタルのあわいに在る作品、④私たちの知覚・身体や現実空間の拡張など、何かを超えようとする試みが様々な方法で展示されます。また、戦前戦後を通じ、現在までの流れの中で「創造と生成のあいだ」を見すえ活動を展開した「アートコレクティブ」である先駆者らの活動を、小規模な資料展示（企画展示室 2 階）により紹介します。

3　連携…多様なイベント、関連事業

◎**イベント**…出品作家らに加え、VR や宇宙領域などを専門とする研究者をゲストに迎え、思いがけない発想の原点や専門領域をわかりやすく知る**クロストーク**を行います。また、AI と人間の相互進化のあり方を、AI と競うゲームを通して探求する「デヴィエーションゲーム （Deviation Game）」などを開催します。

◎**関連事業**…「**MOT アニュアル extra**（エクストラ）」
本展会期中、変容しつづける表現のプラットフォームで展開している現在進行形の事業について、外部機関にご協力いただきながらご紹介する「**MOT アニュアル extra**」（12 月 9 日より、企画展示室地下 2 階、入場無料）を実施します。（詳細は後述の「関連事業」参照）

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班　工藤・稲葉・内堀
TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141
E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp　URL：https://www.mot-art-museum.jp
※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO OF ART 東京都現代美術館

参加作家・作品　※すべて参考図版です

荒井美波

《太宰治『人間失格』》2012
Photography by Sho Sato

1990 年生まれ。デジタル技術の普及にともない「文字を書く」行為が変化したことから、行為の軌跡である直筆原稿に着目し、活字に置き換えられた文学者ら（太宰治、夏目漱石ほか）の直筆文字を、針金で書き順通りに立体化する作品を展開してきた。本展では、作家自身に内在するデジタルと手わざの往来を新作と併せて紹介する。

後藤映則

《Heading》2022

1984 年生まれ。原初的な映像メディアと現代のテクノロジーを往来し、動きや時間、目に見えない事象やフィジカルとデジタルの関係性に着目した作品群を発表する。3D プリンタとスリット光源によるオブジェや、コロナ禍を経て人々が向かう先を問いかける作品、昼と夜の光で変容する大型屋外彫刻を展示する。

（euglena）

watage20210101《aloof6》 2021

1993 年生まれ。中華系タイ人とペルー生まれ日本人の両親のもと、日本に生まれ東京で活動する。「無垢に自身を再認識する」をコンセプトに、タンポポの綿毛で構築された、人工的な動力に拠らないインタラクティブ作品を制作し、心理学や身体をテーマとする作品も手がける。本展では、種子にならなかった綿毛を用いた近作を含め、テクノロジーのサイクルとは違う時間の流れを可視化し、内的な時間へと誘う。

Unexistence Gallery
（原田郁／平田尚也／藤倉麻子／やんツー）

《新しい実存》2021-

ネットワーク上に常時存在し、どこからでも鑑賞できる「Unexistence Gallery」への入口が、人々が作品と対峙する展示空間に出現する。異なるアプローチで「次元の往復」に取り組む作家たちが、実体を超越した「新しい実存」という多様な「意味の場」を呈示する。

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班　工藤・稲葉・内堀
TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141
E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp　URL：https://www.mot-art-museum.jp
※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

MOT MUSEUM OF CONTEMPORARY ART TOKYO 東京都現代美術館

やんツー

《TEFCO vol.1 ～重力発電の夜明け～》2023
photo：萩原楽太郎

1984 年生まれ。日々変容し続けるテクノロジーや社会状況をいち早く捉え、人間とテクノロジーの関係、身体性や表現の主体性の在りかについてを問い、人間の行為を情報技術が代替する自律型の装置などを作品として制作し、国内外で高い評価を得る。本展では「発電」に焦点を当てた新作シリーズとして、大型重力発電装置によるインスタレーションを展開する。

花形槙

《still human》2021-

1995 年生まれ。加速する資本主義社会においてテクノロジーによる新たな身体を模索し、自己と他者、人間と非人間の境界を往来しつつ、「私」ではなくなっていく、「人間」ではなくなっていく肉体についての実践やパフォーマンスを展開する。本展では身体にカメラとヘッドマウントディスプレイを装着して視覚の位置を転移させ、人の動きの再構築を試みる展示を行う。

菅野創＋加藤明洋＋綿貫岳海

《かぞくっち》2022　photo：山口伊生人

新しい技術が社会においてどんな意味を持ちうるかをユーモラスに問いかけ、国内外で高く評価されたデジタル人工生命 NFT ロボット《かぞくっち》(2022)に続き、本展では、一般家庭に最も浸透したロボット＝掃除ロボットによるユニークな「戦隊」シリーズを通して、現代社会を見つめなおすストーリーを展開する。

Zombie Zoo Keeper

《Zombie Zoo #0082 / #0123 / #0011 / #0081 / #0007 / #0012 / #0059 / #0035》　©Fictionera

2012 年生まれ。8 歳の夏休みに、自由研究として母親と NFT アートプロジェクト「Zombie Zoo」(2021)を始動し、タブレットアプリを用いて「ゾンビ×動物」のドット絵を多数制作、まもなくアートコレクターに注目され、NFT アーティストとして世界的な話題を集める。ミュージックビデオやゲームへの国際的展開に加え、本展では新作を展示する。

石川将也／杉原寛／中路景暁／キャンベル・アルジェンジオ／武井祥平

《四角が行く》2021　photo：飯本貴子

多様な領域で活躍する作り手たちが、コンベアに乗って近づくゲートをくぐって自在に動く３つの四角と、アニメーション上にのみ見えるゲートに合わせて健気に動く１つの四角で構成された、CG やコマ撮りの動きを思わせる装置を実現した。本展では、見えない「ルール」の存在に気づかせ高く評価された作品「四角が行く」を、より空間的に展示する。

市原えつこ

《未来 SUSHI》2022　撮影：黒羽政士　Courtesy of Mori Art Museum

1988 年生まれ。日本的な文化・習慣・信仰を独自の観点で読み解き、テクノロジーを用いて新しい切り口を提示し続ける。奇想天外な発想で広く楽しめる作品性と日本文化に対する独特のデザインから、国際的に受賞、注目され、政府プロジェクトにも参画する。本展では、ディストピア時代の美食を楽しむ新作を展開する。

友沢こたお

《slime CXXXV》2022

1999 年フランス・ボルドー生まれ。スライム状の物質と人形・人間という有機的なモチーフが絡み合う独特な質感を持つ油彩を描き、在学中より受賞多数、多くの個展・グループ展で高く評価される。宇川直宏との実験音楽ユニット結成など、アンダーグラウンドカルチャーを含む多様な領域を往来しつつ活動を展開、本展では油彩含め新作を発表する。
2024 年春、東京藝術大学大学院美術研究科卒業予定。

資料展示

戦前戦後から現在まで、約 100 年の流れの中で「創造と生成」を見すえ活動を展開した「アートコレクティブ」である先駆者らの活動を、小規模な資料展示により紹介します。
会場｜企画展示室２階

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班　工藤・稲葉・内堀
TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141
E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp　URL：https://www.mot-art-museum.jp
※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

イベント

MOT アニュアル　クロストーク

会期中、本展参加作家によるアーティストトークをシリーズ開催します。また、VR、AI、人工生命、宇宙人文社会科学や量子芸術など多様な領域の専門家を迎え、アートとの接点や今後の展望についてお聞きします。
会場｜講堂、参加費無料　＊各回の出演者、開催日程など詳細はウェブサイトに後日掲載いたします。

MOT アニュアル×VR 文化フォーラム　トーク

VR 領域の研究者と本展参加アーティストが、発想の原点についてショーイングとトークを行い、移り変わり続ける同領域の研究と表現について、ディスカッションを通じてわかりやすく紹介します。
日時｜2024 年 2 月 23 日（金・祝）13:00-16:00 予定　　会場｜講堂、参加費無料
出演｜後藤映則（アーティスト）、荒井美波（アーティスト）、山岡潤一（慶應義塾大学大学院専任講師）/草野絵美（アーティスト）、安藤英由樹（大阪芸術大学教授）、橋田朋子（早稲田大学教授）、当館学芸員

MOT アニュアル×デヴィエーションゲーム

コンピュータ科学の父 A. チューリングの「イミテーションゲーム」にちなみ「デヴィエーション（逸脱）ゲーム」と名づけられた、AI と人間の相互進化のあり方を探求するプロジェクト。とあるお題の絵を、AI にはわからないが人間にはわかるように描くゲームを通して、模倣と逸脱を繰り返してきた技術と表現の歴史について考えます。
出演｜Tomo Kihara + Playfool「デヴィエーションゲーム」ほか
会場｜講堂、参加費無料　＊開催日程など詳細はウェブサイトに後日掲載いたします。

関連事業　MOT アニュアル extra

MOT アニュアル展開催中、変容しつづける表現のプラットフォームで展開している現在進行形の事業について、外部機関にご協力いただきながら紹介します。メタバースをテーマとしたアートアワードなど、多様なプロジェクト紹介、関連展示、イベントを行います。
会期｜12 月 9 日(土)～2024 年 3 月 3 日(日) **※会期が MOT アニュアル 2023 展と異なります。**
会場｜企画展示室地下 2 階アトリウム、ホワイエほか　入場無料
内容｜**下記をはじめ、紹介されるプロジェクトの詳細はウェブサイトにて順次公開いたします。**

「日テレイマジナリウムアワード」
プロジェクト紹介の一環として、日本テレビ開局 70 年を記念して創設された XR 領域アワードを紹介（受賞作品、審査員作品＊）します。
（イマジナリウムとは…アーティスト山口勝弘が提唱した映像メディアの理想的境地）
（参考）https://www.ntv.co.jp/imaginarium/

＊アワード審査員作品紹介｜草野絵美
1990 年生まれ。レトロフューチャリズム、若者文化、最新テクノロジーをテーマに創作活動を行う。東京に生まれ、高校時代に原宿でストリート写真家デビュー、FIT ミュージアムやヴィクトリア・アンド・アルバート美術館で発表する。AI アートを中心に手がけ、オークションハウス・クリスティーズ、Bright Moments、Unit London など世界中で展示を行う。

参考図版　©Emi Kusano

パナソニック株式会社 デザイン本部 FUTURE LIFE FACTORY「KOTOBATABI」
みんなの言葉が雲になって浮かび、偶発的な発見を誘発する AR（拡張現実感）のインタラクティブツールを楽しく体験します。（参考）https://panasonic.co.jp/design/flf/works/kotobatabi/　　**ほか**

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班　工藤・稲葉・内堀
TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141
E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp　URL：https://www.mot-art-museum.jp
※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

展覧会概要

展覧会名	MOT アニュアル 2023　シナジー、創造と生成のあいだ
会期	2023 年 12 月 2 日(土)～2024 年 3 月 3 日(日)
休館日	月曜日（1 月 8 日、2 月 12 日は開館)、12 月 28 日～1 月 1 日、1 月 9 日、2 月 13 日
開館時間	10:00－18:00（展示室入場は閉館の 30 分前まで）
観覧料	一般 1,300 円（1,040 円）／大学生・専門学校生・65 歳以上 900 円（720 円）／ 中高生 500 円（400 円）／小学生以下無料　＊（　）内は 20 名以上の団体料金
会場	東京都現代美術館 企画展示室 3F ほか
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
共催	CG-ARTS（公益財団法人画像情報教育振興協会）
助成	芸術文化振興基金
協力	日本テレビ放送網株式会社、パナソニック株式会社 デザイン本部 FUTURE LIFE FACTORY　ほか ※上記は予定・依頼中を含みます。
問合せ	050-5541-8600（ハローダイヤル）
企画	事業企画課 企画係　森山朋絵
担当学芸員	森山朋絵、新畑清恵、井波吉太郎

芸術文化振興基金

同時期開催展

企画展	豊嶋康子展　企画展示室 1F（12 月 9 日―2024 年 3 月 10 日）
コレクション展	「MOT コレクション」コレクション展示室 1F/3F（12 月 2 日―2024 年 3 月 10 日）

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班　工藤・稲葉・内堀
TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141
E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp　URL：https://www.mot-art-museum.jp
※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

東京都現代美術館　広報班 宛　　FAX. 03-5245-1141

画像請求書

広報用図版として 11 点をご用意しております。掲載ご希望の方はお手数ですが本請求書に必要事項をご記入の上、FAX またはメールにてご連絡ください。なお、写真の使用に際し、**キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ずご表記ください。作品のトリミング、編集、文字載せはお控えください。**本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正原稿をお送りいただき、掲載後には、掲載誌（紙）、公開 URL、DVD、CD 等を広報班宛てにお送りください。

媒体名：　　発売・放送予定日：

種　別：ＴＶ　ラジオ　新聞　雑誌　フリーペーパー　ウェブ媒体　その他

御社名：　　ご担当者名：

Ｅメールアドレス：

ご住所：

ＴＥＬ：　　ＦＡＸ：

ご希望の図版番号に印をお付けください。

- ☐ 1　荒井美波《太宰治『人間失格』》2012　Photography by Sho Sato
- ☐ 2　後藤映則《Heading》2022
- ☐ 3　（euglena） watage20210101《aloof6》2021
- ☐ 4　Unexistence Gallery（原田郁／平田尚也／藤倉麻子／やんツー）《新しい実存》2021-
- ☐ 5　やんツー《TEFCO vol.1》2023　photo : 萩原楽太郎
- ☐ 6　花形槙《still human》2021-
- ☐ 7　菅野創＋加藤明洋＋綿貫岳海《かぞくっち》2022　photo : 山口伊生人
- ☐ 8　石川将也／杉原寛／中路景暁／キャンベル・アルジェンジオ／武井祥平《四角が行く》2021　photo : 飯本貴子
- ☐ 9　Zombie Zoo Keeper
  《Zombie Zoo #0082 / #0123 / #0011 / #0081 / #0007 / #0012 / #0059 / #0035》2021　©Fictionera
- ☐ 10　市原えつこ《未来 SUSHI》2022　撮影：黒羽政士　Courtesy of Mori Art Museum
- ☐ 11　友沢こたお《slime CXXXV》2022

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班　工藤・稲葉・内堀
TEL：03-5245-1134（直通）/ FAX：03-5245-1141
E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp　URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。